



知っているようで 知られない Q & A

食用にされる動物たちほど、私達の生活に密接に関っている動物はありません。
それなのに彼らのことを、私達はあまりに知らなすぎるのではないかでしょうか。



日本では何頭の豚が飼われているの？



A 日本では約6000の農家・企業が900万頭以上の豚を飼育しています。豚は6~7ヶ月で出荷され、年間屠殺数は約1600万頭です。繁殖用に使われるメスは1年間に2回出産し3年で6産、約100頭の子豚を産むと屠殺されます。



新型インフルエンザは、 豚インフルエンザが発生源？



A 窓のない豚舎で異常な過密飼育が行われるため、豚インフルエンザウイルスが強毒性のウイルスに突然変異して広がったと推定されています。



海外からはどうくらい輸入されているの？



A 豚肉の輸入量は、国内生産量とほぼ同量に達します。従って日本人が食べるために殺している豚の頭数は、年間3200万頭にもなると推定されます。生後6~7ヶ月で急速に成長させられ、出荷されます。



子豚は尻尾を切られるって、ほんと？



A すべての動物の子どもと同じく、子豚も好奇心が強く遊びたがります。けれども、殺風景な狭い囲いの中に過密飼育されているため、ストレスから他の子豚の尻尾をかじったりします。それを防ぐため、生後まもなく尻尾を無麻酔で切断してしまいます。またオスの子豚は無麻酔で去勢されます。



豚はどんなところで飼育されているの？



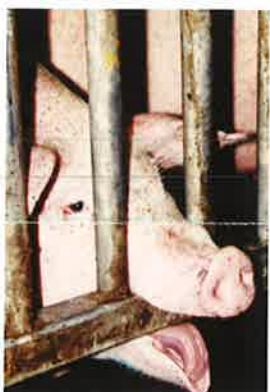
A 体重が71~110kgの豚が入れられているスペースはわずか1~1.5平方メートル(長さ1.8m×横幅65cm)程度しかありません。



そんなに過密だとストレスにならないの？



A 動物の生理や習性を無視した過密飼育は、動物に絶え間なく大きなストレスを与え続けています。それにより、呼吸器系の病気のほか、肝臓病や癌、肺炎などの内臓疾患も発症し、さらにさまざまな感染症がまん延します。そのため多くのワクチンや大量の薬品が投与されています。



ストレスのため鉄柵をかみ続ける



子豚は歯を切断されるって、ほんと？



A ほんとうです。過密飼育で子豚どうしがかみ合うのを防ぐため、ほとんどの養豚場では子豚の犬歯を無麻酔で根元から切断しています。大きくなったりオスも切断されることがあります。



犬歯を切断される



そんな肉を食べても大丈夫？



A 屠殺場で解体されるときに内臓の病気を検査すると、約70%に病変が見つかり廃棄されています。生後6~7ヶ月の若い豚にこれほど内臓疾患が見られても、「肉には影響はない」として市場に出回ります。



母豚は身動きもできないって、ほんと？



A ほんとうです。母豚を、横幅が65cmしかない柵(ストール)に入れ、身動きできない状態で妊娠、出産、授乳を行わせます。大規模養豚場ではほとんどがこの方式で、母豚を飼育しています。しかしEUでは、動物福祉の観点から、2013年よりこのストール飼いは禁止されています。



母豚のストール飼育

**ストレスと病気に苦しみ、薬漬けにされている豚たち。
その肉は、「安全」で「おいしい」と言えるでしょうか？**



乳牛と私たち

知っているようで

Q 知られていない
& A

牛は広々とした草原で飼われているのでは?



いいえ、多くの牛は牛舎の中に閉じこめられています。搾乳や糞尿の処理をしやすように、首かせをするなど、歩くこともままならない不健康な飼育方法のせいで、蹄や関節などの病気が多発しています。



首かせをはめられた牛



牛は緑の草を食べているのでは?



いいえ、牛たちには常に大量の穀物が与えられています。そのため、牛の消化器病が多発し、クスリや治療が欠かせません。大量の糞は液状になり、お尻や尻尾を汚すので、じやまになると尻尾が切断されることもあります。



ゴムソングで尾を締め付け、腐らせて切断する



なぜ、牛に穀物を与えるのでしょうか?



高脂肪の牛乳を大量に出させるために、また廢牛（5歳ほど）で肉にするときに、脂身を多くするためにです。つないだままで運動させないのも、脂肪ぶどうにさせるためです。



胃もたれのする固形の穀物飼料



牛に与える穀物はどこからくるの?



牛たちに与えられるトウモロコシや大麦などの約90%はオーストラリアやアメリカなどの海外から輸入されています。その多くは遺伝子組み換え穀物であるおそれがあります。



高脂肪の牛乳は体にいいのでは?



高カロリー、高脂肪の牛乳や動物性食品は、かつての貧しい時代にはごちそうで体にもよかったでしょうが、毎日このような食生活を続けると、人間も肥満になったり、さまざまな慢性疾患、生活習慣病におかされるようになります。

Q 知られていない
& A

パケツ式の哺乳瓶から人工乳を飲む子牛



牛の赤ちゃんは牛乳を飲んでいるの?



牛乳は本来は、牛の赤ちゃんのために母牛が出しますが、人が搾り取るため、赤ちゃんは母牛から引き離され、代用乳（人工乳）を与えられています。そのため口さみしくなり、柵をなめ続けたりする異常行動を起こすことがあります。



牛の健康と福祉のために何をしたらいいの?



戸外で運動させ、牛の本来の食べ物である草や粗飼料を与え、穀物の投与を大幅に減らす（あるいはなくす）ようにすればいいのです。牛の体に無理をさせないように飼育することで、乳量や乳の脂肪分は自然に減少します。そして牛も健康になり長生きさせることができます。



牛乳と環境問題はつながっていますか?



とても大きな関係があります。成牛は1頭当たり1日に約60キロもの糞尿を出しますが、多頭・過密飼育のせいで処理しきれなくなり、河川や土壤の汚染にもつながっています。また、海外から輸入される穀物飼料には多大なエネルギーコストがかかる上、世界で飢えている8億人以上の人々の食料を奪うことにもつながっています。



私たちには何ができるでしょうか?



少しくらい高くても、牛にも環境にも体にもよい製品を選んで買いましょう。スーパー やメーカーなどに「アニマルウェルフェア」（動物福祉）の認証とラベル表示を求めましょう。



牛乳の安価な大量販売は、牛を苦しめ、人の健康を損ない、環境にも悪影響を及ぼす

**自由を奪われ、ストレスと病気に苦しむ牛たち。
その牛乳は、「安全」で「おいしい」と言えるでしょうか？**

たまごと私たち

知っているようで 知られていない

Q&A



食用にされる動物たちほど、人間の生活に密接に関っている動物はありません。それなのに私たちのことを、人間はあまりに知らないすぎるのではないかでしょうか。



日本では何羽の採卵鶏が飼われているの？

A 日本で飼育されている採卵鶏の数は約1億7000万羽です。約1200の養鶏場が1万～10万羽を飼育しており、約300の養鶏場が10万羽以上を飼育しています。（卵を産まないオスはヒナのうちに廃棄処分されます）

Q バタリーケージって、なに？

A 4～6段に重ねられた金網のケージのことです。このケージでの過密飼育は、人にたとえれば満員電車に死ぬまでつめこまれているのと同じ状態です。EUではこの飼育方法を反省し、バタリーケージは2012年に法律で禁止されました。

Q 鶏舎には窓がないって、ほんとう？

A 一般に鶏舎には窓がなく、薄暗い人工照明で長時間暮らし続けます。室内には羽毛やほこりがたちこめ、換気扇がフル回転しても、糞尿のアンモニアの臭気が充満しています。そのせいで呼吸器系の疾患にかかってしまうことがあります。

Q そんなに過密だとストレスにならないの？

A 動物の生理や習性を無視した過密飼育は、動物に絶え間なく大きなストレスを与え続けています。そのため、運動不足で骨粗しょう症になったり、様々な病気にかかることが懸念されます。わずか1年半あまりで肉用に命を絶たれますが、その前に5～10%もが死んでしまいます。

Q 鳥インフルエンザはなぜ起こるの？

A 鶏舎にインフルエンザが発生すると、過密状態の膨大な数のニワトリに次々と感染して、強毒性のウイルスに突然変異を起こすと考えられています。ひとたび鳥インフルエンザが発生すれば、鶏舎のすべてのニワトリが一気に殺処分されてしまいます。



くちばしや蹴爪を切斷されるって、ほんと？



A ニワトリはなわばりを作る習性をもっていますが、あまりに過密なため、互いに突つきあってしまいます。その対策として、生まれて間もなくくちばしや蹴爪を焼き切ってしまうのです。不揃いに切斷されるくちばしは餌をついぱみづらく、誤って舌を切られてしまうこともあります。

くちばしを焼き切るデビーキング



餌も水も与えないことがあるって、ほんと？



A ニワトリは本来1年の産卵期が終わると羽換わりをして休養します。これを早めるために、人工的に羽換わりをさせる（強制換羽）措置がとられます。夏季は10～14日間、冬季は7～10日間絶食させ、点灯も中止します。このときに衰弱死してしまうニワトリもいます。動物福祉の観点から廃止が求められています。



ニワトリは何を食べているの？



A 海外から輸入されるトウモロコシなどの様々な穀物や動物性の原料を混ぜ合わせた配合飼料が与えられます。産卵率を高めるために不自然な飼料を大量に与えることは、健康と安全、環境保全の観点から問題があります。



ニワトリはなぜ毎日たまごを産むの？



A 鳥は通常、親鳥が巣で抱いて温めることのできる数しか産卵しませんが、採卵鶏は、卵を産むたびに取られてしまうので、毎日のように、産み続けなければなりません。母鳥は、年間に300個以上も卵を産み続け、生命力を使い果たして、わずか1年半ほどで「廃鳥」とされてしまいます。



たまごは「物価の優等生」？



A この半世紀近く、多くの物価が何倍にも値上がりする中、卵については何十年もの間1個10円～20円程度で売られています。資材・飼料価格・人件費の上昇分は、ニワトリが劣悪な環境に置かれることで補われています。

自由を奪われ、ストレスと病気に苦しむニワトリたち。
その卵や肉は、「安全」で「おいしい」と言えるでしょうか？